

平成23年3月21日

政 務 調 査 報 告 書

栗山町議会議長 橋場 利勝 様

栗山町議会議員

田代 司

このたび、政務調査のため出張しましたので次のとおり報告します。

日 時	平成22年10月20日 9:30 ~ 17:30
視 察 先	千葉県隠岐郡海士町
視察項目	海士町の取り組みとその課題、教育人づくりについて
対 応 者	山内海士町長、川崎教育長、若元財政課長、上田課長
報告事項	日本海、島根半島沖合約60kmに浮かぶ有人島 の1、中、島に「海士町」とし、1島1町(面積335km²) 高速船「フェリー」で約2-3時間おき、外海離島 のハブとなる。これは、奈良時代から 遠流の島として、多くの島に配流の所であった。島民の 上から、19年手に入れた島で、島民の長寿の念 げでも保つていられる。 ・「島の消滅? 超過疎化、超少子高齢化、超財政悪化」 25年7,000人から、現在2,400人になっている 高齢化率39%、世帯数も1年100人、H21年末に 地方債79億円、1714年6月町長選挙、職員の意識改 革、現場は「住民総合サービス株式会社」とあり 職員が変われば現場が変わり、現場が変われば住民 が変わり、環境が変われば地域(島)が変わると 地域再生のモデルとして、中心に政策を打ち出す ・「生涯現役社会」に導く戦略、徹底した行政改革の断行 H16に町長以下議会、管理職、職員組合から 給与の自主取組の申し出で「日本一安い給料」 日本一安い自治体として有名になり、これに 住民、危機感と共有できるといふ。財政 事情は、大変に改善されたといふ。 町長のリーダーシップが大きいといふ。

日 時	平成 年 月 日 : ~ :
視 察 先	
視察項目	
対 応 者	
報告事項	・ <生と残る文化の戦略 — 豊実な後型産業振興策 > 自然環境と地域資源を生かした一次産業の再生として ① 海② 潮風③ 塩の3つのキーワードに「島暮らしをブランド化、 する」という究極のふるさと振興を目標にしている ① オート「エスエスカー」・オート「いわかま 春香」・CA8という 新技術を導入・船員の流通・インフラを一気に整備し 出荷時期の調整も可能になり収入の確保に大工になった ② 公共事業の減少により、建設業の主要種を輸入の需要 農業(畜産業)の会社で設立「島生乳 島育ち 隠岐牛」 のブランド化を目標とし、商品化・前商社を設立 東京市場で大手牛乳店に売り、着実に市場が拡大 している ③ 天然塩を生産するためには、島国らしい食品づくりの 推進をめざす ・ <辺境の島に改革の光！ 構造改革の芽が咲きつゝある> 様々な分野に再チャレンジの機会がある？ 島の資源 伝統文化を活かした起業家が島に根ざした新しい 産業を生み出し、模範的であり、産業に更に生み 出し「合資会社」の島型ビジネスを展開している

日 時	平成 年 月 日 : ~ :
視 察 先	
視察項目	
対 応 者	
報告事項	○〈最終尾の、最先端へ 付ステナフルで馬あり〉 小内町長の町政の経営方針「自土・挑戦・交流、 — 人と自然の共生馬 — 「若者、馬鹿者、若者、馬鹿者」が馬場の原動力に 異質さが取り入れ 存在感を持つと変化し 成長する 馬の生え変わりに若者、若者の力が加わると 最終に 町長のメッセージ 感動をおぼえたら 一言で 地域作り、若者の成長は究極「人づくり」であり 「モノづくり」と「人づくりの両輪」により 持続可能な 地域作り（若者と若者、馬場の海工町の日本の 新しい道を最先端で実現する）という 日本海の小内町馬場の日本経済を創出する、という 気概が垣間見える。～ 同様に町政の最終尾 の最先端に挑む 馬は本と橋の架け手であり 常に馬場を いかに活用するか アドバンステクニク、ビジュアルには 国産の100%の小内町馬の挑戦は 絶えぬ。